

修士学位論文（要旨）

2011年1月

日本文化における「ケア」についての一考察
—将棋棋士師弟間の「ラインケア」プロセス—

指導 石川 利江 教授

心理学研究科
健康心理学専攻
209 j 4055
倉田 郁也

目次

| | |
|------------------------------------|----|
| 1. 序論 | 1 |
| 1. 1 はじめに | 1 |
| 1. 2 本研究の背景 | 3 |
| 1. 3 諸外国の「ラインケア」 | 8 |
| 2. 先行研究 | 12 |
| 2. 1 「ラインケア」研究：管理監督者教育 | 12 |
| 2. 2 「ラインケア」と類似概念 | 17 |
| 2. 3 日本文化における「ラインケア」：将棋棋士「師弟関係」 | 26 |
| 3. 本研究の目的と意義 | 29 |
| 3. 1 「ラインケア」現場の問題、「ラインケア」政策の問題 | 29 |
| 3. 2 本研究の目的 | 29 |
| 3. 3 本研究の意義 | 29 |
| 3. 4 用語の操作的定義：「ラインケア」 | 30 |
| 4. 研究方法 | 31 |
| 4. 1 質的分析による調査 | 31 |
| 4. 2 研究方法の選択 | 31 |
| 4. 3 M-GTA の分析手続き | 36 |
| 5. 将棋棋士師弟間の「ラインケア」プロセスの研究 | 38 |
| 5. 1 研究1：将棋棋士・森信雄七段のブログ分析 | 38 |
| 5. 2 研究2：将棋棋士師弟のインタビュー分析 | 45 |
| 6. 総合考察 | 56 |
| 6. 1 「本研究結果」：研究1と研究2のまとめ | 56 |
| 6. 2 「本研究結果」と「各国の政策」および「先行研究」の比較検討 | 57 |
| 6. 3 「本研究結果」の応用可能性 | 61 |
| 6. 4 本研究の限界と展望 | 62 |
| 6. 5 おわりに | 63 |
| 引用文献 | 66 |
| 謝辞 | 72 |
| 資料 | |

要旨

1. 序論

「本研究の背景」として、労働者の「心の健康」の問題（厚生労働省、2010）を提起し、厚生労働省の対策（厚生労働省、2006）、特に、4つのケアのうち、本研究の主題である「ラインケア」を取り上げた。また、「諸外国の「ラインケア」」（公益財団法人日本生産性本部、2010）と比較検討し、日本の「ラインケア」の特徴と諸外国の特徴を分析した。

2. 先行研究

「「ラインケア」研究」の先行研究として、管理監督者教育の文献レビュー調査（川上ら、2008）を取り上げ、「ラインケア」の研究はまだ始まったばかりであり、「ラインケア」教育の効果評価の必要性を説いた。

また、「「ラインケア」と類似概念」として、ケアリング、リーダーシップ、ソーシャル・サポート、メンタリング、コーチング、チームワークを取り上げ、これらの類似概念から、労働者の「心の健康」の問題に取り組んでいたことを概略し、「指導」と「受容」の共通概念を抽出した。

そして、この共通概念は、昔から、「日本文化における「ラインケア」」として存在している、「師弟関係」にその前例があるとし、本研究の調査対象である、将棋棋士の「師弟関係」についての概略（木村、2001）を述べた。

3. 本研究の目的と意義

「「ラインケア」現場の問題、「ラインケア」政策の問題」として、「ラインケア」を担う管理監督者の負担が増え、管理監督者の「心の健康」問題が増加してしまっているという（財団法人労務行政研究所、2008）現場の状況と、更に、政策の問題として、傾聴中心の「ラインケア」という日本的な方略に問題があるとも述べた。「本研究の目的」として、日本文化に根差した「師弟関係」に上述の問題を解く鍵があるとの仮説に立ち、将棋棋士の「師弟関係」から「ラインケア」プロセスを分析することを本研究の目的とした。そして、「本研究の意義」として、「ラインケア」の実践に、「師弟関係」という「垂直の人間の関係」を導入することや、教育、政策にもこの視点を取り入れることに、意義があると論じた。「用語の操作的定義」として、「ラインケア」を「師弟関係」と、本研究では使用していることを述べた。

4. 研究方法

本研究は、「質的分析による調査」を実施するにあたり、6つの視点から、研究方法を検討した。そして、この「研究方法の選択」を5つの理由から行った。また、本研究の分析方法、「M-GTAの分析手続き」を記載した。(木下、2003、2007)

5. 将棋棋士師弟間の「ラインケア」プロセスの研究

「研究1」として、「将棋棋士・森信雄七段のブログ（森信雄の日々あれこれ）分析」を試みた。このWeblog文章の分析によって、棋士師弟間でどのようなケアが行われているのかという、ケア・プロセスを探索的に抽出し、後のインタビューのための質問項目を採集することを目的とした。分析の結果、3つのカテゴリー、6つ概念が抽出された。「研究2」として、「将棋棋士師弟のインタビュー分析」を試みた。本研究は、師匠と弟子間で行われているケア・プロセス、師弟間の「ラインケア」プロセスを概念化することを、目的とした。分析によって、2つのコア・カテゴリー、5つのカテゴリー、15の概念が抽出された。

6. 総合考察

「本研究結果」として、「研究1と研究2のまとめ」、また、「本研究結果」と「各国の政策」および「先行研究」の比較検討を行い、「師弟関係」とは、《修業》を修めた師匠が、《修業》を求める弟子と関わりを持つ、逆に言うと、《修業》を求める弟子が、《修業》を修めた師匠に関わりを求める、という関係であり、この《修業》には、《儒教》的思想や《宗教》的思想も含まれ、その行動原理は、経験的に培われた《哲学》によって継承されている。そして、師弟関係とは、相互作用的人間関係、愛苦喜の感情を含めた全人的関わりである、との結果を得た。

「本研究結果」の応用可能性として、『試行錯誤の個別対応』、【相互作用のプロセス】、【ケア成立の契約】、『人生観』、『死生観』、『部下の成長を見守る喜び』など、現場で働く上司と部下に、「ラインケア」に関する知見を提供できた。

そして、「本研究の限界と展望」を述べ、最後に、「care」とは、人間の存在に関わる行為であり、「慈悲」と言う行為であるとの考察を行った。

引用文献

- 川上憲人 島津明人 土屋政雄 堤明純 (2008). 産業ストレスの第一次予防対策：科学的根拠の現状とその応用 産業医学レビュー 財団法人産業医学振興財団、Vol. 20 No. 4 pp175-196
- 木村義徳 (2001). 持ち駒使用の謎 日本将棋の起源、社団法人 日本将棋連盟
- 木下康仁 (2003). グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 —質的研究への誘い— 弘文堂
- 木下康仁 (2007). ライブ講義 M-GTA—実践的質的研究法— 弘文堂
- 公益財団法人日本生産性本部 (2010). メンタル・ヘルス研究所 産業人メンタルヘルス白書 (2010年版) 公益財団法人日本生産性本部生産性労働情報センター
- 厚生労働省 (2006). 労働者の心の健康の保持増進のための指針
<<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/03/dl/h0331-1b.pdf>> (2010年12月21日)
- 厚生労働省 (2010a). 自殺・うつ病等対策プロジェクトチームとりまとめについて
<<http://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/jisatsu/torimatome.html>> (2010年12月21日)
- 森信雄の日々あれこれ <http://www.eonet.ne.jp/~morinobu52/> (2010年12月21日)
- 財団法人労務行政研究所 (2008). 企業におけるメンタルヘルスの実態と対策
<<https://www.rosei.or.jp/contents/detail/6125>> (2010年12月21日)